

学校のために役立ちたい

～ 親子清掃ボランティア活動の実践 ～

前橋市立岩神小学校 P T A

1 はじめに

ほしい物が何でも手に入ってしまう豊かな時代に育っている現代の子どもたちは、ありがたとか、感謝するとかという気持ちが薄れてきているように思われます。もしかしたら、それは、子どもたちのみならず我々親世代にも言えることかもしれません。学校に大変お世話になっていてもそのことを当たり前としか感じていないようでは、子どもたちの人間性は育まれません。また、少子化、核家族化の中で、親子がかかわる機会は多くありそうですが、実際には一緒に活動する機会は意外に少ないのではないのでしょうか。地域の中で多くの人と一緒に活動したり、家族と一緒にボランティア活動をしたりすることも、ほんの一部の人に限られているのが現状のようです。

このような中、親子で一緒に学校への感謝の気持ちをもって、自分たちにできることを行う意義は大きいと思われます。さらに父親の活躍の場をつくり、父親の役割を高められれば、より親子関係も深まるし、学校への関心も高まることになるはずです。

岩神小学校 P T A で取り組んでいる「親子清掃ボランティア活動」は、日頃お世話になっている学校への感謝の気持ちを表す活動として、また、親子で学校のために役立つことで存在感や充実感を高める機会として、そして、家庭と学校とが協力し合い関係を深める場として毎年続けられてきました。

2 岩神小の親子 P T A 活動

岩神小学校は、群馬大学医学部や前橋气象台などの近くに位置し、敷島公園・バラ園を校区に含む前橋市の中央部の中では自然に恵まれた地域です。本校児童数は 405 名、家庭数は 322 件（22 年 9 月現在）で、P T A 活動には多くの方の協力を得ることができます。

P T A 親子行事としては、毎年、学年委員が中心となって、各学年ごとに親子で楽しみ、かつ学べる行事を計画して実施しています。そのほかに本部役員が中心となって行っているのが「お正月遊び大会」と「親子清掃ボランティア」です。「お正月遊び大会」は 1 月の土曜日に、体育館で、「岩神カルタ」やはねつきなどして親子で遊ぶ行事です。「親子清掃ボランティア」については次の通りです。

以前は、環境美化ボランティアとして、年1回、高い場所の窓ふきやトイレなどをきれいにしようという活動を行っていました。平成18年度から、教室の天井に設置された扇風機の清掃（6月）と、トイレ清掃（11月）の2回実施するようになりました。天井に設置された扇風機を、脚立に乗って取り外す必要が出てきて、父親の参加が急増しました。参加者も年々増えてきています。これは、参加した人が、次の年も参加するようになり、それが次第に広がりを見せてきたことが理由のようです。平成18年度は、第1回が約80人、第2回が約60人程度でした。平成22年度には、第1回が約127人、第2回が77人と増えています。

3 親子清掃ボランティア活動

(1) 第1回 6月12日（土）9時～12時

- ①清掃箇所 ○全教室の天井の扇風機 ○高いところの窓 ○教室の天井の蛍光灯
- ②募集の方法 ○実施日の1ヶ月ほど前に、PTA本部役員が、次のような申込用紙と子ども向けのチラシを作成し、全家庭に配布しました。

申込用紙

子ども向けのチラシ

③当日の流れ

○開会（9：00）

体育館で受付を済ませてから学年ごとに集合です。PTA会長と校長先生の挨拶の後、清掃分担や方法について連絡しました。



○清掃活動（9：15～11：00）

ぞうきんやビニール手袋などを持って、自分の学年の教室へ行きました。父親と男の先生は、扇風機カバーを取り外しました。

母親、女の先生と子どもたちは、はずされたカバーを流しできれいに洗いました。



各学年3教室分の扇風機を、みんなで順番に掃除していきました。一年間の汚れはすごいです。ごしごしと磨いていくと、まるで新しい扇風機に生まれ変わったようでした。それをまた、父親が取り付けました。



扇風機がきれいになると、今度は、蛍光灯をぞうきんできれいにしたり、高い箇所の窓を磨いたりしました。子どもたちも母親たちと一緒に窓ふきをしました。

○みんなで遊ぼう（11：00～12：00）

作業終了後、体育館に集合し、親子と先生方と一緒に遊ぶ時間を設定しました。年齢や学年に関係なく、安全にみんなが楽しめる遊びとして、今年度は「ドッチビー」で遊ぶことにしました。子どもは4チームに分けての試合、大人も2チームに分かれて試合をしました。



(2) 第2回 11月13日(土) 9時15分～11時45分

①清掃箇所 ○子どもが日常的に使用する各学年用のトイレ

②当日の流れ

○開会(9:15)

体育館に集合し、トイレ箇所を分担してから移動しました。基本的に自分の子どもの学年に配置しますが、男女の数などを考慮し、できるだけ、男性が男子トイレを、女性が女子トイレを清掃するように分担しました。

○清掃活動(9:30～10:30)

低学年の子どもは流しをスポンジできれいにするなどの清掃活動を行いました。中学年以上は、親子で一緒に便器や床の清掃をしました。父親は不慣れな手つきのようにでしたが、換気扇や便器のねじ部分など細かいところまできれいにしていたので、逆に母親や子どもたちに賞賛されていました。



○みんなで遊ぼう(10:30～11:30)

好評だった「ドッチビー」を再度行うことにしました。前回と比べ、今回は全員が参加しているという雰囲気の中で盛り上がり、会話や笑い声も多くなったようでした。

4 実践の成果

(1) 参加者の声より

○学校に関心はあるが、なかなか出向く機会がない。行事や参観日に、仕事を休んで行くことはあるが、子どもの姿を見るだけで帰ってきてしまう。今回は先生と話をしたり他の父親と会話したりすることができたので貴重な機会だと感じた。(父)

○清掃活動と聞いてはじめは躊躇したが、男性の出番もありそうだと聞いたので参加してみた。次もぜひ参加しようと考えている。(父)

○子どもが家で話す友達や先生の顔が分かって、ずいぶん身近に感じられるようになった

た。家に帰ってから親子の会話が弾むと思う。(父)

○家では見られない、掃除をする真剣な子どもの姿が見られて感心した。子どもたちも楽しそうだった。(母)

○トイレは一日一回はお世話になる場所。だから子どもにはずっと6年間この活動に参加しなさいと言っている。親としても、ふだん子どもがお世話になっている場所を掃除するのは当たり前のことと考えたい。(母)

(2) 成果をまとめると

- ① 子どもの心に、学校への感謝の気持ちが育ってきていること。
- ② 親と子が、学校のために役立つ場となっていること。
- ③ 保護者と先生とが一緒に活動することでふれあう機会となっていること。
- ④ 父親が参加しやすく、活躍できる活動になっていること。
- ⑤ 同じ学校の親としての仲間意識が高まってきていること。
- ⑥ 清掃活動が、子どもたちの快適な学校生活につながっていること。

5 おわりに

清掃ボランティア活動そのものに価値があると思いますが、それだけでなく、親子で参加すること、父親も参加しやすくすることにより、大きな意義につながっていると考えます。親子で参加することで感謝する気持ちも大きく育つでしょう。また、何か学校のために役立ちたいと思っている父親のためにも、よい機会になっていると思います。

ボランティア活動は嫌々ながらやるものではないはずです。参加者数が増えればよいのではなく、参加してよかった、自分も役立つことができたという気持ちを持ってもらえるように活動を工夫することが大切だと思います。

今年度は、清掃後に親と子と先生方で一緒に遊ぶ時間を設定しました。そのことで、さらに思い出に残った方も多かったようです。身体を動かすことで、会話の苦手な人もかわるきっかけになりました。参加した父親の多くは、先生方の顔も知らないようでしたが、これを機会に、先生の顔も覚え、学校への関心も高まったようでした。

今後も、「親子清掃ボランティア活動」を、学校のために役立ちたいという気持ちを表す場として継続し、そのことで、PTA会員自身の存在感や充実感につながっていくことを目指して、より有意義なPTA活動を推進していきたいと思っています。